

2020 年 7 月 1 日

生徒・保護者の皆様へ

帝塚山学院中学校高等学校

進路指導部

国語科・英語科

漢字検定および英語検定の受験について

盛夏の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと、お慶び申し上げます。
平素は本校の教育にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、本校では、漢字検定（漢検）の準会場実施および、昨年度は英語検定（英検）の準会場実施を行ってまいりました。しかしながら、英検については、厳正な実施が求められるリスニングにおいて、鉄道からの騒音等、校外および校内からの騒音を全受験教室において完全に遮断するのが難しい状況でした。また本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で準会場受験も実施できない状態が続きました。今後もウイルス感染症については予測できない不確定要素が多く、日程が絶えず変更されており、学校の行事予定との調整が難しい状態です。

一方で、漢検、英検ともに、従来の PBT（紙ベースの試験）から、CBT（コンピューター試験）に移行してきています。CBT は、受験日および受験会場が複数設定されており、個々の受験者のスケジュールや習熟度、居住地域に応じた、より適切な時期・会場で受験することが可能です。英検協会からも CBT 受験機会のさらなる拡大を目指す旨の発表がなされています。漢検についてはほぼ毎日、英検については、原則毎週土曜日・日曜日に実施されています。また結果通知も、紙ベースのものより早く確認することができます。

つきましては、本年度からの漢検および英検の受験は「CBT 受験の推奨および本会場受験」とすることと致します。（英検に関して、中 3・高 3 の一部生徒については別途対応をする予定です。英語科より別途お知らせ致します）

英語民間試験については、「大学入学共通テスト」での実施は見送られましたが、多くの大学入試において加点対象として変わらず用いられます。そのため、試験の厳正な実施が求められており、英検以外の英語民間試験では、準会場受験に相当するスコアが認められないものも既に存在しています。日本英語検定協会も、「試験における公正性や厳正性を追求するため、『CBT 方式の試験の優位性を考慮し、今後は CBT 方式の試験を中心に据えていく』という方針」を発表しています。今後、CBT 受験がより一般化することも踏まえ、CBT をより積極的に受験していったほしいと考えています。

こうした観点からも、漢検、英検とも、CBT 受験および本会場受験としたいと考えておりますので、保護者の皆様におかれましても、ご理解、ご協力の程、よろしくお願い致します。